

2019. 5. 16



羽の斑紋が細かいリュウキュウアサギマダラ。写真撮影後に放した（提供写真）



延岡市内で初めて確認されたリュウキュウアサギマダラ（左上）。下はアサギマダラ（提供写真）

リュウキュウアサギマダラ 延岡 迷チョウ 県内で初確認か

生息地から季節風などに運ばれて飛来する迷チョウの「リュウキュウ

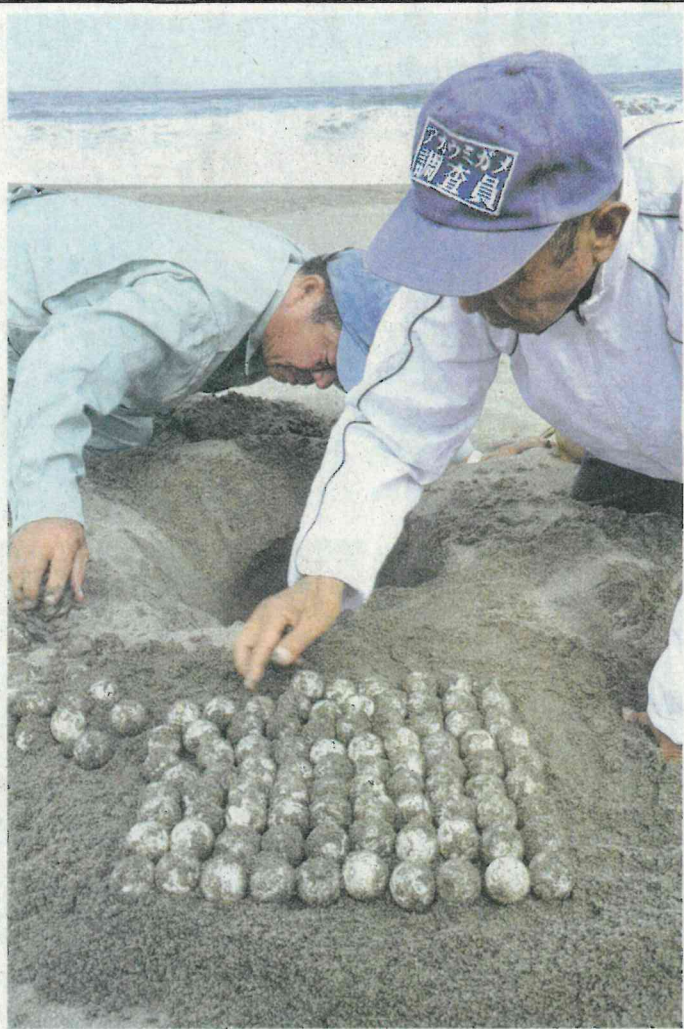
アサギマダラ」が、延岡市内で見つかった。県内で確認されたのは初めてとみられている。

大貫町の山下康彦さん（79）が、自宅のシマフジバカマの花に止まっていてのを発見した。渡りをするチョウとして知られるアサギマダラに1匹だけ交じっていたという。

写真で確認した宮崎昆虫同好会の安本潤一幹事によると、リュウキュウアサギマダラはマダラチョウの仲間。近縁種のアサギマダラより羽の斑紋が細かく、淡いブルーの色が入る。

沖縄、奄美に普通に生息するが、九州本土に迷チョウとして飛来した記録は少ないという。シマフジバカマはマダラチョウが好む花で、「アサギマダラに交じって飛んできたのではないか」と安本さん。

五ヶ瀬川右岸堤防の「コノハナロード」でチョウの好む花を植える活動を続けている山下さんは、「これからシマフジバカマの株を増やし、アサギマダラが旅の途中でひと休みする道の駅にした」と話していた。



県の天然記念物に指定されているアカウミガメが延岡市の長浜海岸に今シーズン初めて上陸、産卵したことが15日に確認された。市文化課によると、昨年よりも上陸は8日、産卵は6日遅い。県内では13日に串間市で確認されていた。

アカウミガメの上陸・産卵シーズンになる

アカウミガメ 長浜海岸で産卵

5/16 今シーズン初上陸を確認

延岡市文化課

と、延岡市野生動物研究会(河野正会長、5人)が、方財、長浜、新浜の3海岸で調査している。初上陸を確認した吉本哲さん(67)＝同市緑ヶ丘IIによると、15日午前5時ごろに波打ち際から20ほど続くの卵を111個確認した。卵は少し離れた安全な高台に移動させて報告した。同日午後、

同課職員と同会メンバーによる合同調査を行い、直径3・5センチ程度、埋め戻した。5～8月に産卵し、9～10月ごろまでふ化が続くという。河野会長は「卵の大きさがそろっていたのが特徴的。今年も多くのアカウミガメが上がってきてもらいたい」と楽しみ。文化課は「アカウミガメはとても敏感で人の気配を感じると海

へ戻ってしまう。海岸への車の乗り入れや夜間の灯火は控えてもらいたい」と協力を呼び掛けている。長浜海岸が担当エリアの吉本さんは、年を追うごとに砂浜が浸食されていることに危機感を抱き「あと5年もすれば砂浜がなくなつて、アカウミガメの産卵場所がなくなつてしまします」と対策の必要性を訴えた。文化課によると、昨年は初上陸が5月7日、初産卵が同9日、上陸数は34回、産卵回数は24回だった。1988年以降の累計で上陸は1534回、産卵は1209回となっている。

岡市の長浜海岸